

## 【報告】

### 一橋大学附属図書館における学生と連携した読書推進活動

江沢美保（学術情報課図書情報係）

菅原光（学術サービス課レファレンス係）

一橋大学学術・図書部

#### 1. はじめに

近年大学図書館において、様々な形で学生の読書を推進する活動が行われている。例えば図書館員と学生が一緒に書店へ赴き本を購入する、図書館が授業や著名人と連携してテーマを設定し、それに沿った資料を書架に並べて紹介する、学生の「読む力」だけではなく「書く力」の育成も視野に入れて文学賞を創設するなど、多様な協働が採られている<sup>1</sup>。

一橋大学附属図書館（以下「当館」という。）でも学生に対する読書案内として、教員や図書館員、学生団体が企画した小展示を行ってきた。これは担当者自らがテーマを決めてそれに沿った資料を収集し、一定期間図書館内に展示して他の利用者に紹介する活動である。2004年の開始からこの10年間で計30程の小展示が行われ、500冊近くの資料が紹介されてきた<sup>2</sup>。

今年度は附属図書館行動計画に「学生と連携した読書推進活動を行う」ことを掲げ、この小展示に加えて、学生による書店での選書ツアーとビブリオバトルを新たに企画・開催した。選書ツアーとビブリオバトルは個別に行うのではなく、互いに関連付けて実施した。具体的には選書ツアーに参加した学生にビブリオバトルのバトルーをお願いし、選書ツアーで選んだ本の中から1冊を紹介してもらった。更に館内の展示スペースを使って選書された本を展示し、選書ツアーとビブリオバトルの両活動報告を行った。選書ツアーとビブリオバトルを関連付けて行った理由は、附属図書館ではビブリオバトルの開催経験がなかったため、まずは読書に関心が強いと思われる選書ツアー参加者にやってもらおうと考えたからである。本稿ではこれらの活動を振り返り、どのように実践したのかを報告する。

#### 2. 高本善四郎図書助成金 学生選書ツアー

##### 2.1. 選書ツアーの概要

日時：平成25年6月26日（水）13:00-16:00

場所：紀伊國屋書店新宿南店（現地集合・解散、交通費参加者負担）

参加者：7名（学部学生6名、大学院学生1名）

選書時間：1時間38分～2時間30分（平均2時間10分）

選書数：123冊（ひとりあたり平均17.6冊）うち洋書9冊

購入数：73冊（約25万円）

財源：高本善四郎図書助成金

高本善四郎図書助成金とは、ダイトエレクトロン株式会社名誉会長である高本善四郎氏（昭和9年東京商科大学専門部卒業）より平成14年に「図書奨学基金」および「図書助成金」としていただいたご寄附である。「本学の青年が読書を通して自己を形成し、学問の学びと喜びを深めるよう図書館資料を備える」という高本氏の趣旨と合致しているため、今回の選書ツアーではこの助成金で図書を購入することとした。

## 2.2 選書ツアーの準備

選書ツアーの準備と実施は、学術情報課図書情報係が主担当として行うこととなった。まず、選書ツアーを行う書店の選定を行った。交通費は参加する学生の負担としたため、本学のある国立市からそれほど遠くない場所であること、図書の品揃えが豊富であること、適度な広さの通路があること等から、紀伊國屋書店新宿南店で行うこととした。紀伊國屋書店の営業担当者、選書された本と既に図書館で所蔵されている本の重複調査をするためのデータ提供方法、選書中の荷物保管方法、写真撮影の可否等について打合せを行った。開催日時は、試験期間でないこと、比較的授業が少ない水曜の午後であること、書店がそれほど混雑しない時間帯であることを考慮して6月26日（水）の13時からとした。

選書ツアー参加者の募集は、6月4日（火）から6月14日（金）の約2週間、図書館 web サイトでのお知らせ、図書館内でのポスター掲示、カウンターでのチラシ配布を行って広報した。また、Twitter<sup>3</sup>や facebook<sup>4</sup>でも告知を行った。結果として7名の学生（学部学生6名、大学院学生1名）から応募があり、彼らに対して個別に事前説明会を実施した。説明会では集合時間や場所とともに選書基準についても説明し、「読書を通じて自己成長できそうな図書」「学問の喜びを深められそうな図書」「周りの学生にも薦めたい図書」という観点で選書してほしい旨を伝えた。この基準は、「高本図書助成金購入図書選定基準」に準じた<sup>5</sup>。選書数はひとりあたり10～20冊程度、上限を概ね60,000円程度とした。

## 2.3 選書ツアーの開催

当日は13時現地集合とした。初めに、紀伊國屋書店の担当者よりハンディターミナル〔写真1〕の使用方法について説明を受けた。ハンディターミナルでバーコードを読み取っていくことで、誰が、いつ、どの本を選書したかのデータが作成され、それが後日リストとして送られてくるというものであった。ハンディターミナルでの読み取りとは別に「選書リスト」〔参考資料1参照〕を参加者に配付し、「タイトル」「著者名」「金額」「選書した理由やおすすめポイント」を書き込みながら選書をしてもらった。このリストは、ハンディターミナルの操作ミスで選書データが作られていない場合に後から発注できるようにするため、学生自身がどれくらいの冊数・金額を選書しているかを分かりやすくするため、



写真1 ハンディターミナル

展示の際に選書理由やおすすめポイントを合わせて紹介するためという目的で作成した。選書が終わったらアンケートに回答してもらい、適宜解散とした。選書時間は2時間から3時間程度となり、ツアー自体は概ね好評と言える感想を得ることができた〔参考資料2 参照〕。



写真2 選書ツアーの様子

ツアーの翌日、紀伊國屋書店から送付された選書データをもとに図書館が実発注を行った。コミックやSF小説などの従来の蔵書構成とは異なる内容の図書も選書されていたが、あくまでも学生が選書するという趣旨を尊重する、学生の文化にコミックや小説は欠かせないものであるといった観点から、図書の内容によって購入を見送ることはしなかった。ただし、既に当館で所蔵している図書については複本の購入を行わないこととした。選書された図書は123冊（うち洋書9冊）、実際に購入した図書は73冊、約25万円分となった。

### 3. ビブリオバトル

#### 3.1. ビブリオバトルの概要

日時：平成25年11月22日（金）15:00-16:00

場所：一橋大学附属図書館 時計台棟コモンズ

発表件数：5件

参加者：36名（発表者を含む）

#### 3.2. ビブリオバトルの準備

ビブリオバトルの準備と実施は、学術サービス課レファレンス係が主担当として行うこととなった。「はじめに」で述べたとおり、ビブリオバトルで本の紹介を行うバトラーは選書ツアーに参加した学生である。準備としてまずビブリオバトルで紹介する図書をバトラーに貸し出し、発表の準備を進めてもらった。また、冬学期に入り彼らとビブリオバトルの開催について日程調整をし、最も希望の多かった11月22日（金）の15時に開催することが決まった。当初は選書ツアーに参加した7人全員に発表してもらう予定だったが、開催日を授業期の日中に設定したため全員の都合を合わせることは難しく、2名が不参加とな

った。一堂に会した事前打合せはせず、ビブリオバトルの公式サイトや YouTube での実演など最小限の情報提供のみ行い、発表のスタイルは各自に任せることとした。

ビブリオバトルの広報は、開催日の2週間前から図書館 web サイトにより行った。その他に学生の目に止まりやすい生協や図書館の入口に立て看板を設置したり、教務課が運営している web 上の本学学生ポータルサイトにお知らせを掲示したりして周知に努めた。

ビブリオバトルで使う小道具は、開催日の1週間前から用意した。必要となった小道具は、バトラーが発表する順番を決めるためのくじ、発表時間や質疑応答時間を管理するタイマー、チャンプ本を発表したバトラーを表彰するための賞状などである。これら小道具を準備する他、観覧用の椅子、ホワイトボードなど、会場レイアウトの検討も行った。なお、こうした準備をすすめるに当たって、紀伊國屋書店のビブリオバトル担当者に事前アドバイスをいただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

### 3.3. 館内職員によるビブリオバトルの開催

事前に図書館員がビブリオバトルの開催経験を積むために、開催前の11月20日(水)に館内職員でビブリオバトルを試行した。その場で22日に利用を予定している小道具を実際に使い、利用方法や進行手順を確認した。急な開催だったが、5人の職員がバトラーとなり、それぞれが持ち寄った本を思い思いに説明した。

事前に試行したことで、バトラーが交代する際の時間間隔や、結果発表を掲示する際の文字の大きさ等に修正が必要なが分かった。

### 3.4. ビブリオバトルの開催

当日は、当館職員により司会1名、記録2名、運営補助2名の体制で臨んだ。観覧者は図書館職員が多かったものの、30名近くが集まった。

開会の挨拶をした後、ビブリオバトルがどういうものかを観覧者に知ってもらうためルール説明を行った。次に事前に準備しておいたくじを使って本を紹介する順番を決めて以降は、タイマーに沿ってバトラーの発表(5分)とそれに関する質疑応答(2分)を5回繰り返した。5人全ての発表と質疑応答が終わった後に、「どの本を一番読みたくなったか」を一人一票による挙手で決定し、その結果、第1回ビブリオバトルのチャンプ本は36票中12票を獲得した『強い力と弱い力: ヒッグス粒子が宇宙にかけた魔法を解く』(大栗博司著)となった。チャンプ本の紹介をしてくれたバトラーに賞状と図書カードの贈呈を行い、最後に江夏由樹附属図書館長が全体の講評を行った。



写真3 ビブリオバトルのバトラーと紹介された本

バトラーには特に発表についてアドバイス等はしなかったが、授業やゼミ等でそうした場に慣れているのか、スムーズに、また楽しく発表をしていたように思われた。一人の発表が終わるごとに様々な質問が寄せられ、それぞれの本に対する興味がより一層高まったように思われた。またビブリオバトルの様子を Twitter で実況したところ、「面白そう」や「参加したかった」といった反応があった他、チャンプ本の著者（大栗博司氏）がリツイートしてくれていた。

#### 4. 小展示

##### 4.1. 選書された本の展示

選書ツアーで選書された図書を、9月9日（月）から11月29日（金）まで附属図書館本館2階の高本小展示コーナーで展示した。また合わせて、選書ツアーの活動報告も実際の様子が分かるよう数枚の写真を添えて行った。本学では通常図書のジャケットを破棄して整理しているが、選書するうえでジャケットのデザインも一つの要因となることから、ジャケットをかけたまま展示した。また、学生選書であることが一目でわかるように帯を付けた。資料IDバーコード・ラベルと請求記号ラベルは図書本体と帯にそれぞれ貼付し、図書本体には「平成25年度学生選書」というシールを貼付した。これらの図書はその場で手にとって読むだけでなく、貸出しも可能とした。

##### 4.2. ビブリオバトルで紹介された本の展示

ビブリオバトルで紹介された本を、12月2日（月）から前述の高本小展示コーナーで展示した。ビブリオバトルの実施報告を添えて展示したところ、早速チャンプ本が借りられていた。

#### 4.3. ブ로그の開設

高本小展示コーナーの図書は借りられている可能性があるため、選書されたすべての図서가確認できる場として、Web 本棚サービス「ブログ」のアカウント<sup>6</sup>を作成した〔図1〕。登録は職員が分担して行い、選書リストの「選書した理由やおすすめポイント」に記載された内容をレビューとして掲載した。



図1 一橋大学附属図書館の本棚

#### 5. おわりに

選書ツアーについてはアンケートで広報の不十分さについて複数意見が寄せられており、ビブリオバトルについてはバトラー以外の学生参加者は6〜7名程と少数にとどまった。共通の反省点として、広報不足が挙げられる。ポスターやチラシ、図書館 web サイトや学生ポータル、SNS といった様々な媒体で広報を行ったつもりではあったが、興味のある学生に情報が届けられていなかったと考えられる。今後は広報の手段や時期について検討するとともに、継続して開催し回数を重ねていくことでイベントそのものの認知度を高めていく必要があると言える。

また、選書ツアー参加者にビブリオバトルで使う本を選んでもらう期間を設定したため、高本小展示コーナーで展示を開始するまでに時間がかかってしまった。選書ツアーを行った経験が新鮮なうちに展示をするためには、選書ツアーとビブリオバトルを切り離して行うことも考えられる。

今回は選書ツアー、ビブリオバトルともに、すべて図書館で企画・運営を行った。どちらのイベントも今回が初めての試みであり、どのような準備が必要でどのように運営していけば良いか、学生にとってニーズがあるのかということを知る点では意義のあるものとなった。今後は、それぞれのイベントの企画段階から学生に参加してもらい、協働してイベントを作り上げていくという方法も考えていきたい。



## 参考資料1 選書リスト

### 高本善四郎図書助成金 学生選書ツアー 選書リスト

※「選書した理由やおすすめポイント」は展示リストに掲載することがあります。

選書者氏名

学籍番号

| No. | タイトル | 著者名・編者名等 | 金額 | 選書した理由やおすすめポイント |
|-----|------|----------|----|-----------------|
| 1   |      |          |    |                 |
| 2   |      |          |    |                 |
| 3   |      |          |    |                 |
| 4   |      |          |    |                 |
| 5   |      |          |    |                 |
| 6   |      |          |    |                 |
| 7   |      |          |    |                 |

## 参考資料2 参加者アンケート結果

### (1) 学生選書ツアーを知ったきっかけ

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 図書館ウェブサイト                   | 4 |
| twitter/facebook            | 0 |
| ポスターやチラシ（図書館内）              | 1 |
| ポスターやチラシ（えん <sup>7</sup> 内） | 1 |
| 人から聞いて                      | 1 |

### (2) 開催時期の希望

|           |   |
|-----------|---|
| 6月上旬      | 1 |
| 今回と同じ6月下旬 | 5 |
| 7月上旬      | 1 |
| それ以外      | 0 |

### (3) 選書上限冊数

|     |   |
|-----|---|
| 少ない | 1 |
| 適当  | 6 |
| 多い  | 0 |

(4)今後、選書ツアーで行ってみたい書店

リブロ書店（池袋）、紀伊國屋書店新宿本店（新宿）、ジュンク堂書店（池袋または渋谷）

(5)参加した感想（一部抜粋）

- ・一橋の図書館は和書の所蔵が豊富だが、ややマイナーな分野は本が少ないので、選書ツアーを通して補充できてうれしい。
- ・図書館に普段は入りそうになくて、かつ図書館にふさわしいのは何か考えるのが大変だった。
- ・他の学生が読む（借りる）可能性を考えて選ぶのが難しいが楽しかった。
- ・個人でも同じことができそう。
- ・普段2時間以上も書店に滞在することがなく、また様々な分野を一気に見る経験がなかったため新鮮だった。また参加したい。
- ・ここ（紀伊國屋書店新宿南店）の本は少ない気がした。全体としてはおもしろかった。

(6)意見等

- ・選書ツアーの知名度が低いので、広報を強化した方がよい。
- ・学生に Twitter や facebook などの SNS で告知してもらえば応募者が増えそう。
- ・PRをもっと広くやってほしい（先輩から聞くまでツアーの存在を知らなかったの）。
- ・年2回おこなってはどうか。
- ・定期的に開催してほしい。
- ・2限終了後すぐに来ててもギリギリになるので 13:30 または 14:00 集合がよかった。

---

<sup>1</sup> 小特集, 学習支援としての読書推進活動. 大学図書館研究. 2013, no. 97, p. 1-44.

<sup>2</sup> TZ 〈ほんの窓〉

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/reading/tz/index.html> (2014-3-13 参照)

<sup>3</sup> 一橋大学附属図書館 Twitter

[https://twitter.com/hito\\_lib](https://twitter.com/hito_lib) (2014-3-13 参照)

<sup>4</sup> 一橋大学附属図書館 facebook

<https://www.facebook.com/hitotsubashi.university.library> (2014-3-13 参照)

<sup>5</sup> 高本図書助成金購入図書選定基準

[http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/kitei/takamoto\\_kijyun.html](http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/kitei/takamoto_kijyun.html) (2014-3-13 参照)

<sup>6</sup> 一橋大学附属図書館の本棚 - ブクログ

<http://booklog.jp/users/hit-lib> (2014. 3.13 参照)

<sup>7</sup> 一橋大学 図書”環”オープンスペース『えん』

学生が運営している、学内外から収集した古書をリユースする読書スペース

<http://ennoshita.kakuren-bo.com/> (2014-1-30 参照)



[Report]

*Activities for Reading Promotion in Cooperation with Students*

Ezawa, Miho.

Acquisition Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,  
Hitotsubashi University

Sugawara, Koh.

Reference Service Section, Academic Services Division, Department of Library Affairs,  
Hitotsubashi University